

緑化だより

No.60 平成23年5月号



シ ラ ン 平成22年4月20日 水生植物園にて

○きのこの味“酸っぱいきのこ”

○サクラのあれこれ

○野鳥の世界

○季節の花

○研修会紹介

○お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

きのこの味



酸っぱいきのこ(2) ヌメリコウジタケ(滑麴茸)

きのこの名前を判別する時、その判断材料の一つになるものとして“味”があります。生のきのこを少しだけかじってみるのです。味が無いものが多いのですが、中には辛いとか苦いとか酸っぱいものもあります。今月は前号に引き続き酸っぱい味のきのこをとりあげます。

ヌメリコウジタケはコナラ・クヌギ林、シイ林、アカマツ・コナラ林に夏から秋にかけて発生してきます。

コウジタケに色合いが似ているのですが、コウジタケと違って

傘や柄に粘性があり、傘の裏の孔口は傷ついても青色に変色することはありません。

また、ヌメリコウジタケの孔口は黄色ですが非常に鮮やかな黄色なので、見つけた時に傘の裏を見て“はっ”と驚くことが多いです。新鮮なきのこには酸味があります。食用にすることができます。



傘の表面と裏の孔口

サクラのあれこれ(2)

今年は気温の関係でソメイヨシノの開花は4月7日になりました。昨年よりちょうど10日遅れです。遅かったソメイヨシノも20日には散り始め、八重桜に変わりつつあります。八重桜の代表は関山(カンザン)で今年は5月初旬も楽しめそうです。ぼったりした赤の濃い花弁は、ソメイヨシノと違った美しさを醸し出します。花弁が大きいことと、色が濃いところから、古くからサクラ茶の材料に使われます。オオシマザクラの葉がサクラ餅の皮に使われるように、日本人に馴染みの深い種類です。



関山

八重咲の桜は、ソメイヨシノより遅いものが多く、楊貴妃、兼六園菊桜などこれから見頃を迎えます。菊桜の名がつくものは、花弁の数が非常に多い特徴をもっています。ちなみに兼六園菊桜は300枚から350枚の花弁数があり、数えるのに一苦労です。

ほかに八重咲の桜には、花弁が緑色の御衣黄(ぎょいこう)と鬱金(うこん)があります。御衣黄は国道54号線を北上した雲南市三刀屋町の川土手に多く植えられており、満開時には雰囲気の変った花見になります。緑化センターでは、多目的広場や園路沿いに植えられています。

昨今、各地でサクラの痛みが報告され、更新の必要性が叫ばれています。

バラ科サクラ属の植物は忌地現象があります。同じ場所に、再びサクラを植える場合は、古い根を切らずに掘り取り、撤去した後、新しい土に置き換えて植えないと活着しません。

全国、多くのサクラの名所で樹勢が衰えてきており、更新に頭を痛めています。2~3年生の苗木で更新する方法ではうまくいきません。ほとんど数年のうちに枯れたという報告を聞きます。

東北地方で、10年生の苗木を植えて成功した報告があり、試してみる価値はあります。

現在、緑化センターでは、古い桜の更新には、新しい幹を育てる方法をとっています。

野鳥の世界

ウグイス

ウメの花、サクラの花が咲く頃になると、ウグイスの鳴く声が藪の中や雑木林の中から聞こえてきます。日差しが日に日に強くなると“ホーホケキョ”の調子も本調子になって多くの人々から好感を持たれます。ウグイスのさえずりが日本人に親しまれる理由のひとつに、ホーホケキョ、と聞こえる鳴き声を「法、法華経」と聞きなして、信心深い昔の人に親しまれたと思われ、別の名を“経読み鳥”と呼ばれることもありました。



周囲を窺うウグイス

夏を涼しい山辺で過ごしたウグイスは、秋、冬の間は里山から生垣、公園の植え込み、庭の垣根と人の生活に近づいてきます。小枝の多い藪にすることが多く、動作も速いのでほとんど目につきません。枝の上で、たえず向きを替えて移動しています。鳴き声も秋から冬は“チャ・チャ”と短く乾いた声で鳴き、別の鳥のように聞こえます。時折、「ケキョ・ケキョ・ケキョ」と、けたたましくつづれ鳴きをしながら飛行することがあります。何かに異状を感じたときのさえずりで、ウグイスの綱渡りと呼ばれています。

ウグイスの羽の色は地味な緑褐色です。目の上に矢形の白い眉斑(びはん)があります。よくウグイス餅の黄緑色が想像されることが多いのですが明るい緑色はメジロの羽の色です。

緑化センター内でも巣作り、子育てが繰り返されていますが目立ちません。

繁殖のための作業は、メスが専業でオスは大半を見張り役で過します。この頃にだけオスは、見透しの良い梢や枝先に姿を見せて、さえずりを繰り返し、安全の確認とテリトリー宣言に専念しています。巣は低木林、笹藪、枯草、カヤの中で、内装には獣の毛、鳥の羽、植物の綿毛などを使って外径7~19 cm、産座には約3~8 cmのつぼ型の巣を造ります。

卵は4~6個でアズキ(チョコレート)色をしています。ヒナが生まれると、メスの給餌活動は素早く、ハエ、ゴミムシダマシ、カガンボ、ガの幼虫、アリ、カメムシなど小さい虫を給餌します。

昨年(H.22年)5月21日、センター池近くのアラカシの繁み、地面から約2m程の所で営巣したウグイスの巣が、へビ(アオダイショウ)に襲われてしまいました。

地上に近い巣は、天敵も多いようです。それでも毎年、数ヶ所で繁殖しているようです。

季節の花

5月は、緑化センターも花盛りです。

4月下旬から遅咲きのサクラが咲き、ウワミズザクラ、ヒトツバタゴ(ナンジャモンジャ)、ガマズミ、オオデマリ、ハンカチノキ、ハナミズキ、ヤマボウシ、ズミ、などが続きます。中旬にはザイフリボク、トチノキ、ホオノキ、カンボク、ウツギの仲間、ジャケツイバラ、ツクバネ、カラタチ。下旬にはカルミア、カンボク、バイカツツジ、ユリノキと様々な種類の花が咲きます。



バイカツツジ

研修会紹介

- 5月8日(日) 『緑のカーテン教室』 10:00～12:00 学習室集合
家の壁を緑で飾り、今年の夏は、エコ生活で過してみませんか？
講師:みずえ緑地 正本 大
- 5月14日(土) 『5月の自然探勝』 10:00～12:00 管理事務所前集合
さわやかな風のもと、新緑の樹木を楽しみながらの研修です。
講師:森林インストラクター 駄賀 恒男
- 5月17日(火) 『コケの観察会』 10:00～12:00 学習室集合
コケについての講習の後、屋外で観察を行ないます。
講師:広島大学名誉教授 関 太郎
- 5月20日(金) 『デジカメ教室』 10:00～12:00 学習室集合
デジカメで上手に写すコツなどについて習い、思い出のベストショットを残しましょう。
講師:写真家 大藤 哲己
- 5月22日(日) 『探鳥会』 9:00～12:00 管理事務所前集合
巣立った野鳥の観察をします。
講師:日鳥連会員 吉見 良一
- 5月27日(金) 『庭木の病虫害教室』 10:00～12:00 学習室集合
庭木を病虫害から守るための注意についての解説などお話しします。
講師:緑化センター職員 正本 良忠

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- フランス刺繍同好会作品展 ～5月8日(日)迄
レストハウスにて、フランス刺繍の小物作品を展示しています。
- 手描き友禅の会作品展 5月11日(水)～6月19日(日)
レストハウスにて、手描き友禅の小物作品を展示します。
- 野鳥写真展 4月25日(月)～5月30日(月)
野鳥愛好家による野鳥の写真の展示です。
- ◎ 臨時開園のお知らせ
5月は毎日開園します。休園日はありません。
- ◎ “春の写真コンクール”の作品募集中！！
自慢のベストショットを応募しませんか？
応募締切り 6月19日(日)



スギゴケの雄花

表紙：シラン(紫蘭) ラン科 シラン属

関東以西の山野に自生があるが、準絶滅危惧種に指定されている。

球茎は“白及(びやくきゅう)”と呼ばれ、止血、痛み止めに使われた。

シロバナ、フクリンなどの園芸種がある。